



## 地球人類家族

石原艶子

☆静かに広がる緑の大地はもの言わずとも無限の恵みを語る。

必要なものは思想ではなく温い人間的関心であった。(中村哲)

☆人間愛は言葉を超越し、他者の心を癒しそして時に命をも救います。

(フランク)

☆みんな仲間だ、わたしたちはみな生まれながらにして自由です。ひとりひとりがみなかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だから互によく考え、助け合わねばなりません。

(アムネスティ日本、条文訳、谷川俊太郎)

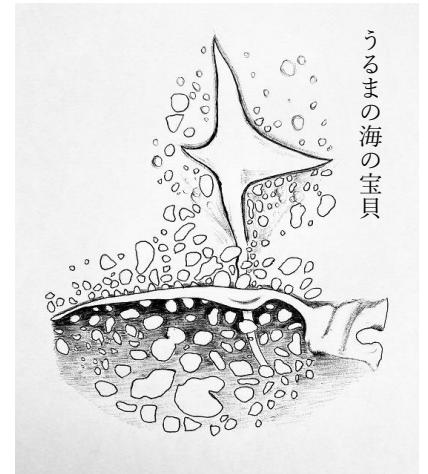


イラスト:大城旋律(孫)

## 地球人類家族

“人は一人では生きていけない。互に癒し癒されて生命が生れ尊ばれ、青い星で光り輝く、ユイマールユイマール命どう宝、あなたはどこに住んでいますか、地球という青い星に住んでいます。じゃあ!!あなたは地球人なのですね!!ええっ!!地球人??そうです、あなたは地球人です。私たちは自分が地球人であることを忘れていた。満月の明るい空、満天の星空、美しい夕焼け空を仰ぐ時、浜辺に立って海の彼方を見る時、人は知るのだ。悠久の時の流れ、その中のほんのいつ時である今を青い星なる地球に生きている自分の命とその人生であることを。そして定められた時を生き、生かされて悠久の時の彼方へと帰っていく。今、目覚めよう、私たち一人ひとりかけがえのない命として、青い星、地球に生かされている地球人類家族であるということ。

☆青い星で輝いて互に美しい花を咲かせ、咲かされて感謝と絆で結ばれて共に生きている命!!多様性豊かな素晴らしい民族共同体家族である。だから今、良心よ目覚めよ!!戦争は今すぐにやめよう。武器を捨てて土を耕そう。私たちみんな地球家族ではないか。すべての民族が一人ひとりの存在がかけがえのない命として神に愛されていることを知ってほしい!!地球人類家族としての文化を豊かに豊かに咲かせて、幸せになろう!!神の平和が天にあるようにどうか、地球人類家族なる私たちの上に神の平和が成りますように。みんなでみんなで手を取り合って平和を祈り求めていきましょう!!

**☆辺野古裁判** —— 県は今迄いくつもの裁判をして国に訴えてきましたが、辺野古抗告二審も県の敗訴となりました。新基地設計変更申請を巡り、県の不承認処分を取り消した国土交通省の裁判は違法だとして県が処分の効力回復を求めた抗告訴訟の控訴審判決で一審判決に続き国は「不適法で却下すべきもの」と棄却しました。提訴の適格性すら認めず「却下すべきもの」と退ける国、司法での戦う術は失われつつあります。県民の知恵を結集してありとあらゆる努力をしてみても、沖縄を日米軍事植民地とする国は「安全保障のため」と、沖縄を犠牲とした軍事力拡大の一途を猛進しています。そして8月20日、国は大浦湾側にある3ヶ所の護岸工事に着手しました。海ではクレーン船が一本目の杭を打ち込み作業を始めました。クレーン船の周辺では海上チームがカヌーで抗議活動をしました。とうとうここまで来てしまったのか、とつぶやく私の心に(海に杭は打っても、心に杭は打てない)と誰かの声が聞こえました。

**☆不発弾処理** —— 戦後79年、不発弾処理は4万件に達しましたが、1日1弾処理したとしても後70年~100年を要すると言われています。戦後処理が今も続いているのです。不発弾処理のニュースを聞く度に、あの南部での地獄の血の海を、死の様を思い浮かべて胸つぶれる思いを抱きます。雨、あら

れと降り注いだ爆弾は何 100 万個もあったのです。沖縄では未だ戦後は終わっていません。それなのに何故、新たな戦前を作るのですか。不発弾を飲み込んだ沖縄の大地は戦後 79 年の今、NO WAR、命どう宝と叫んでいます!!

**辺野古座り込み 10 年** —— 新しい工事用ゲート（テントから徒歩 15 分位）前での座り込みは 30 度を超える猛暑の中では本当に過酷なものがあります。「私はあなたと共に生きる、いちゃりばちょうでー(兄弟) 手をとりて・・・と。勇気を出して歌うのも、みなさんと一緒に元気になってこの場所で頑張りたいからです。座り込んでいた私たちみんなが機動隊によって排除されてから 100 台以上のダンプが長く連なって、次々とゲートに入っていくのをじっと見ながら入り終わるのを待ちます。最近はこのダンプの列を見るのがとても辛く心が折れそうです。何故?何故?こんな愚かなことをするのですか。たまらない気持ちになって涙が出て泣いています。そしてこの情景を思い出すだけでも泣いてしまう自分の弱さに限界を感じつつあります。20 年後、辺野古の海と陸とはどうなっているのでしょうか。歴史は何を明らかにしてくれるのでしょうか。分かっていることは良きことは何ひとつ生れていないということだけです。今もあの美しい希望の海は殺され続けています。アメリカの死の商人の手先となった日本政府と軍需企業の数々が「儲かるからやめられないよ」とサタン（悪魔）の手下になって悪を行っているのです。偽りの言葉で飾りつつその実は「今だけ、金だけ、自分だけ」の悪そのものです。苦しんでいた私の元に非暴力の闘いを貫いたガンジーの言葉が語りかけてくれました。『**あなたのすることのほとんどは無意味であるが、それでもしなくてはならない、そうしたことをするのは世界を変えるためではなく、世界によって自分自身を変えられないようにするためである。**』と。この言葉が心の底に落ちました。自分自身との闘いなのだと思います。聖書には神の子イエスがサタン（悪魔）に試みられる記事があります。サタンはイエスに向かって「私に頭を下げ拝むなら、全世界を与えよう」と言いました。イエスは「あなたの神である主を拝み、ただ主にのみ仕えよ」と答えられました。サタンは私たちの良心を奪いあらゆる手段をもって私たちをサタンの支配下に置こうとします。私たちは目に見えるお金、権力、虚偽の思想、宗教に惑わされてはいけません。そのためには、辺野古がどんな絶望的状况になろうとも NO WAR、全基地撤去を叫び続けることしかありません。長い闘いの中で、病のために亡くなられる方々もおります。自分自身も先のことは分かりません。今日一日と思い感謝しつつ、互に支え合いつつ、絶対にサタンに魂を売り渡すことのない闘いを続けているのです。沖縄でも多くの人々が既に諦めてしまい、安保容認、抑止力、中国脅威論などにあおられ、軍拡支持する行政のトップが多くなりました。政府に反対したら不利益を被るからでもあります。これこそ、サタンに沖縄の魂を売り渡してしまった姿です。少数で無力であってもサタンに魂を売らない人がここに居る限り希望があります。『**命をささげるような人たちがいるうちはこの世界もひどくはないのです。この世の中にそういう人たちがいるうちは生きる意味があるのです。人生は人間に絶望しない。**（フランクフル）』

## 米兵性的暴力、事件隠蔽許さない抗議集会

繰り返される悲しい事件に沖縄の民は怒り心頭!! その上、政府による半年間もの隠蔽工作に二重の怒りに震える程の激しい抗議行動がいくつも生まれました。8 月 10 日には県民大集会に 2000 人が結集して、女性達の涙の訴えと共に激しく米軍、日本政府に対して抗議宣言をしました。事件の内容は新聞、ネットで公表されています。何故、このような事件が繰り返されるのでしょうか。共に考えてみたいと思います。性的暴力事件が報道されるのはほんの氷山の一角にすぎません。この社会、人間が居る所、どこでも起きている問題であって米兵に限ったことではありません。根本的に人間の問題としてその深刻さを捉え直すことが必要だと思えます。人間の性的欲望が暴走する時、弱い立場の女性や少女達が犠牲になります。暴走する性欲者を完全に失くすことは不可能に近い難しいことです。軍隊という人殺しのための暴力集団に

は性暴力がつきものです。そのことは戦時下での歴史が証明している通りです。この国の歴史を省みる時に、目を覆いたくなる恐るべき性犯罪がどれほど行われてきたことか。金福童（キムボクトン）という映画を観ましたか？14歳で強制連行され慰安婦とされた彼女の苦難の人生に言葉を失い涙しました。彼女は苦しみの中で平和と希望の尊さを訴え続け、人権活動家として次世代の子供達を励まし、支援し続けました。米兵による事件と向き合う時、同時に私たち日本人が犯してきた恐るべき性暴力と向き合わなくてはなりません。またそれらの性犯罪をなかったこととして、教えることも、謝罪することもしない誤魔化しの偽りの日本人として今も生きている私たちである事を知らねばなりません。米兵の犯罪は、忘れたくない負の遺産をまざまざと見せつけてくれます。戦後アメリカは国民が政治的に無関心になるように、愚民政策として**3S政策**（スクリーン、スポーツ、セックス）を日本に取り入れました。その政策に協力したのが正力松太郎です。日本テレビ、プロ野球読売巨人軍を創立しました。核の平和利用として原子力発電を積極的に取り入れました。全てアメリカの意向に沿うものでした。私達日本人がアメリカナイズ応化され、フリーセックスの名の下、性的腐敗した国民と化したことは重大問題です。今こそ性犯罪はその人の人生全てを奪い、一生の苦しみをもたらす殺人であることを私たちは真剣に受け止め、米兵の犯罪と私達日本人の今も続く犯罪と向き合い、闘っていかなくてはなりません。身近にある性暴力、その心奥に巣食っている人間性を破壊するさまざまな問題に対して、もっと危機感を持ちましょう。スクリーン、スポーツ、ネット情報に埋没しないで良心を呼び覚まし、人間らしい人間になって共に支え合って幸せを作っていきましょう。

## ☆ブラジル、移民迫害を謝罪

謝罪という感動的言葉に私の心は震えました。謝罪は未来への希望につながるからです。まさに希望のニュースでした。1943年7月のサントス強制退去事件などについてブラジル政府は7月25日正式に謝罪し、約80年もの歳月を経ての歴史的節目となりました。第2次世界大戦で連合国側についたブラジル当局から「敵性外国人」と見なされた日本人は当局から根拠のないスパイ容疑者として追われ、家、財産も奪われたり、収容所や内陸の居住地に送られたりして6500人（その内6割が沖縄出身者）が苦難を受けました。歴史的な謝罪が実現した背景には水面下で長年活動、努力した方々がおられたからです。◎このニュースは私達日本人に対して衝撃を与えました。戦後80年、今からでもブラジルのように朝鮮半島、中国、アジアの国々の人々に謝罪するという**スタートライン**に立ちたいと切に願います。謝罪は真実な人間の心から生まれ、平和への道だからです。謝罪出来ない人は不安になり、強い力に依存し、軍事力という力を持つとします。謝罪して下さったブラジル政府に心から感謝したいと思います。

## ☆安和港ゲート、ダンプカー追突による死傷事故

### Aさんの受難、回復を祈って

6月28日(金) 安和、ダンプ出口での事故の知らせに言葉を失いました。警備員の方の命は一瞬にして奪われました。瀕死の重傷を負ったのは辺野古の仲間、友人のAさんでした。私たちうるまの安和行动参加者は7月2日、現場に立ちお花をたむけ警備員のBさんのご冥福を祈り、Aさんの回復を祈りました。Aさんは辺野古ゲート前抗議行動が始ってからの10年来の仲間でした。彼女はムードメーカーで、小柄なお体のどこからあれほどの大きく力強い声が出るのだろう、その歌声には全存在をかけての意気込みがみなぎっていました。いつも早朝からパンを焼いてこられテントに座る私達に配って下さいました。彼女のその気持ちが嬉しくて、元気を頂いていました。「人はひとりでは生きていけない、わたしはあなたと共に生きる、互に癒し癒されて、感謝と絆で結ばれて、ユイマール、命どう宝」いつも歌っていたこの歌のように、みんなと共に生きる喜びが彼女を輝かせていたのです。実はあの事故でAさんは出血多量で重体

だったのです。生死の間をさまよう危険な状態を脱することが出来たのは彼女の精神力の強さであったとお姉さんが証言されました。"Aさん、スゴイ！頑張ってくれてありがとう。"と叫びつつ、彼女の強い精神力はどこから来たのかと思いました。それは、みんなと共に平和のために闘いぬきたい、みんなと共に生きていたいという強い願いであったと思います。生死を分けたものはAさんのちむぐくる、命どう宝の沖縄の魂だったのですね。『骨は折れても、心は折れない』と厳しい治療の中で彼女は語っています。仲間のみなさんの励ましの言葉に支えられて、長い苦難の治療にも耐え、きっと元気になられて戻って来られると信じています。今回の事故では、現場検証により問題点が明らかにされつつありますが、私は現場の人達はみんな国の犠牲者であって誰も悪くはないと思います。悪いのはアメリカ隷属の日本政府です..。一体、だれがこんな無謀で愚かな辺野古埋め立てを始めたのですか。日本という国がこの事故を起こしたのです。この事故によっていかなる弾圧が始まったとしても私達は叫び続けます。「大浦の海に手を付けるな!!全軍事基地撤去!!命どう宝」戦争につながるすべてのことに反対します。警備員さんの死を決して無駄にはいけません。Aさん、元気になってまた一緒に声を上げ続けましょうね、待っています。

☆何事故は起きたのか ——— この春頃迄は抗議行動で牛歩する私たちとダンプ運転手との間には暗黙の承認があり、それなりの安心が保たれていました。ところがある時からダンプの入り方が、右折、左折、直進と三方向から重なり合って入る全く危険な状態になりました。事故のあった出口でも2台並んで出たり、強引なやり方になりました。このままでは事故が起きると心配して訴え続けても防衛局は聞く耳をもたず、強引に危険極まりないやり方を強行していました。そして事故は起きました。国、警察、防衛局はこの事故は私達抗議する市民によるものだと決めつけ、事故原因、反省など一斉の説明もなく、55日後の8月22日安和搬出を再開しました。この日、安和港に集結した私達を迎えたのは、多数の県警機動隊と30人~40人もの警備員がオレンジ色のネットフェンスで入口を囲み、私たちが一歩も入れないように排除する様でした。県民の抗議行動を排除、抹殺しようとする国家権力のむき出しの意志が私たちに襲いかかったのです。どんなにオレンジネットバリケードで囲んでも私たちの心までも奪うことは決して出来ません。私たちの心は自由です。命の海を殺すな、子供達の未来を守れ、と叫び続けます。(再開してから2週間、今までの3倍、950台~1000台のダンプを入れているという事です。工事が遅れて前のめりになり焦っているのでしょう。)

## ☆パレスチナ、ガザの子供たち

ガザである方が子供達に将来の夢を聞きました。子供達は「爆弾を作って人を殺すこと」と答えたそうです。悲しい絶望的な現実、1日も早く話し合いを重ねて終戦にしなければ取り返しがつきません。憎しみの連鎖、次の戦争の芽が子供達のうちに育っているのです。ネタニヤフ首相はハマスの条件を百パーセント受け入れることで終戦にしてください。

## 辺野古基金のために

○あみの会(山田博子:うるま市在住) **リサイクル糸を求めています**  
リサイクル糸類を提供して下さる方は**必ずご連絡下さい。** 窓口:石原つや子  
〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子  
自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email: yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ

